



議会たより

松崎

No.109
平成27年10月15日

《主な内容》

第3回定例会（9月8日～9月11日）

- 平成26年度決算審議……………2
- 平成27年度補正予算……………5
- 町政を問う 一般質問に5議員……………8
- 静岡県市町議員研修会 他……………13

踊り「松崎の長八さん」披露
(平成27年9月27日 長八まつり)



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

平成27年9月定例会

平成27年第3回定例会が、9月8・9・11日の3日間で開催されました。

町からは、報告2件、条例改正2件、補正予算6件、平成26年度決算認定7件、その他1件の議案が提出されました。

また、議会からは議会会議規則の改正1件、意見書を提出する議案1件が提出され、慎重な審議を行いました。

平成26年度

一般会計 決算審議

歳入総額39億3949万7千円、歳出総額36億7246万6千円、翌年度への繰越額1億29万3千円で、1億6673万8千円の黒字決算となった。

歳入

問 ふるさと納税にご協力いただいた方は23人で614万8千円となっているが、西伊豆町の納税実績と比べるとかなりの格差がある。今後、人口が減少していく中で、新たな税源を見つける取り組みは。

答 企画観光課長 ふるさと納税については、平成27年度からウェブサイトやクレジットカード決済など新たなシステムを導入し、7月末で512件、600万円余りの申込がある。しかし西伊豆町の納税額と比べるとまだ差があるので、これからも魅力ある商品を開発する、

あるいは地元の方々にご協力いただきながら進めていきたい。

問 固定資産税における滞納分の不納欠損について、町内の該当者はどのくらいか。また時効はどうなっているのか。

答 窓口税務課長 不納欠損した町内在住者は、およそ40名いる。時効に関しては5年で消滅時効となるが、それがないように財産調査をしている。その上で換価できる財産がないと判断できた場合に不納欠損処分を行っている。

不納欠損とは

滞納分の徴収金が徴収できなくなったとして、その滞納金額を消滅させることを不納欠損という。

例えば、納税者が死亡し相続人もいない場合や、時効が成立したときに不納欠損処分が行われる。



9月定例会 議場の様子

問 町税が前年度より減っているのは、町民の所得が減っていることが大きな原因で、町民所得を上げるための適切な予算を使わなかったからと考えている。税収を上げるための対策はどうか。

答 総務課長 現在、地方創生の中で、どうしたら若い人の就労の場を確保できるか取り組みを行っている。

総体的に言えば、町の

中に、にぎわいを作って多くの方々が町に滞留するような状況を作る、そして人が集まればそこにビジネスチャンスが生まれて事業所なども発生してくる。そうすれば就業の場も広がって、ゆくゆくは納税につながっていくというのを考えている。町では、地方創生とか美しい村づくりとかいろいろな事業を使って対策を試みている。

歳出

問 予算に対する歳出の執行率が87・2%で不用額(予算の使い残し)が多い。もっと早い段階において補正予算を組み、町内の困っているところへ使うことを考えなかったのか。

答 総務課長 職員の取り組み姿勢の中にも、どうしても安全率を加えて予算をとることが顕著になっていくところがある。それを是正するためには、予算査定の中で不用額を出さないよう、また予算を有効に活用するよう、職員に対して話をしている。ただ、予算が決まっているからその予算を全部使い切れば良いというものではないので、予算査定の中で本当に必要かどうか検討し、余剰額があった場合にはその他に地域で必要としている事業を前倒ししてやってくることを考えている。

問 重度障害者(児)医療費助成事業や身体障害者補装具交付事業、自立支援給付事業で不用額が多かった理由は何か。

答 健康福祉課長 年度末において各事業の対象者から申請があった時、予算が残っていないと対応することができない。予算額にある程度の余裕をみていた結果、不用額が生じた。

問 岩地地区カラーコントール用原材料支給で不用額が多かったのは、整備体制が整わず、事業実施が少なかったのと、だが、現状と今後について伺いたい。

答 企画観光課長 原材料支給の申請は1件にとどまった。地区内での作業にあたる体制が整っていない現状もあるが、今後とも地区からの要望に基づいて、予算付けをしていく。

問 那賀大規模花畑は、今年、非常に不評だった。アフリカキンセンカなどの花よりも日本の原風景を求めるのならレンゲの方を費用対効果の意味でも良いと思うがどうか。

答 企画観光課長 現在の6種類の花については、今まで検討する中で、田んぼに最適な花を選んだので、これからも続けていきたい。

またレンゲについては、過去に岩科地区で農業委員を通じて種を配布したことがあったが、耕作者の農作業に影響することから花畑としての期間が短く、定着することができなかった。

問 なまこ壁技術伝承事業は、なまこ壁通りのところを補修しているが、その他のなまこ壁がある地域にもまちづくりとして広げる考えはないか。

答 企画観光課長 平成6年から長八美術館周辺の個人のブロック塀をお

借りして、左官職人のなまこ壁技術伝承と町並みづくりのために整備をしてきた。なまこ壁は美しい村の地域資源でもあるので、いろいろ議論されている。景観ガイドラインを整備する中で検討していきたい。

答 副町長 本年度、景観ガイドラインを策定する中で、なまこ壁建造物の保存計画を考えている。計画では、なまこ壁の伝承と言うことを含めて事業として建造物の保存を考えていきたい。ただし、なまこ壁建造物の所有者がほとんど個人所有なので、ご協力をいただく中で、保存事業を進めていきたい。

問 最近、西伊豆町では英語を教えるために外国人4人を雇った。当町も外国人を雇うなど教育にもっとお金を使った方が良いのではないか。

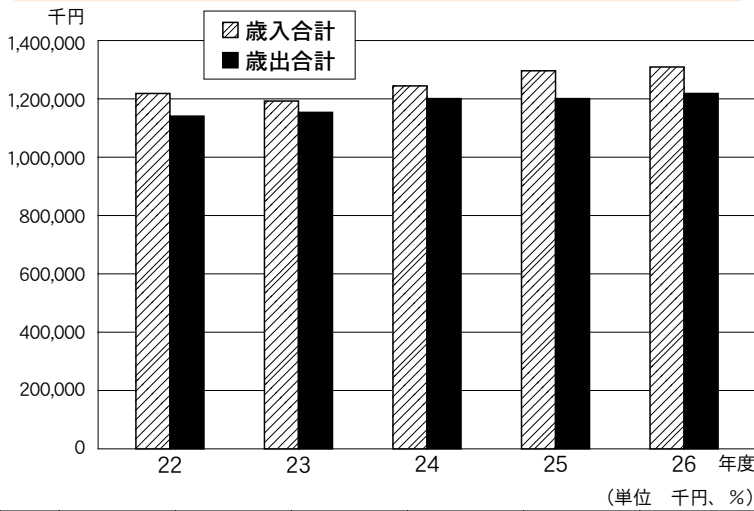
答 教育長 現在、当町では人材派遣会社からA

L T (外国語指導助手)を1名入れている。中学校に常駐しており、英語の授業を担任と一緒にやっている。小学校では授業を週2時間行うほか、学期に2、3回の幼稚園訪問や学校行事にも積極的に参加している。現状を見ると今のA L T 1名の対応で足りていると認識している。



A L T 授業の様子

国民健康保険特別会計決算推移



| 年度 | 歳入合計 | 前年増減 | 歳出合計 | 前年増減 | 実質収支額 | 前年増減 |
|----|-----------|-------|-----------|-------|---------|--------|
| 22 | 1,221,982 | △ 1.2 | 1,137,712 | △ 0.9 | 84,270 | △ 5.3 |
| 23 | 1,193,421 | △ 2.3 | 1,160,408 | 2.0 | 33,013 | △ 60.8 |
| 24 | 1,250,520 | 4.8 | 1,199,001 | 3.3 | 51,519 | 56.1 |
| 25 | 1,301,932 | 4.1 | 1,200,605 | 0.1 | 101,327 | 96.7 |
| 26 | 1,308,189 | 0.4 | 1,228,920 | 2.4 | 79,269 | △ 21.8 |

国民健康保険特別会計

歳入総額13億818万9千円、歳出総額12億2892万円で7926万9千円の黒字決算となった。

問 高額療養費について、一カ月当たり一番高かった方の療養費は。
答 健康福祉課長 一カ月の入院で、療養費が500万円を要した方は1人、また療養費300万円くらいを要した方が7、8人となっている。

問 システム等改修業務委託の内容は。
答 健康福祉課長 国民

健康保険はいろいろと制度が変わることが多く、法改正などに関わるシステム改修や、システムの機能を高めるバージョンアップなどの業務内容となっている。

問 賀茂地域広域連携会議の専門部会の中で、税の徴収事務の共同化が郡内6市町で協議されているが、静岡県滞納整理機構との関係はどうか。
答 窓口税務課長 現在、賀茂地域広域連携に向けて、税の関係の専門部会を開催している。6市町合意による設立準備も立ち上げており、平成28年4月スタートに向けて町税を含めた詳細を詰めて行くことになっている。

静岡県滞納整理機構については、機構が対応できる当町の割当ては10件で、手間と時間を要する事案となっているのに対し、賀茂地域広域連携ではスピードと量を重点に置いている。

介護保険 特別会計

歳入総額8億3074万3千円、歳出総額7億9581万2千円で3493万1千円の黒字決算となった。

問 町内では、独居・高齢者世帯が5軒に1軒となっている。お年寄りを守るため、民生委員だけではなく、介護保険で助け隊や見回り隊などを考えるはないか。
答 健康福祉課長 介護

保険の要支援1・2の方であれば、ケアマネージャーが付くし、サービスの内容によっては包括支援センターの職員がお宅を訪問している。ただ、今後は国の制度変更により、介護保険での対応はできなくなり、地域で支援することになる。平成30年までに支援体制を整えることになっているので、そうしたご意見を参考にしながら進めていきたい。

要介護(要支援)認定者数 545人

| | | | | |
|-----|------|------|------|------|
| 介護度 | 要支援1 | 要支援2 | 要介護1 | 要介護2 |
| 人数 | 73人 | 81人 | 116人 | 90人 |
| 介護度 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | |
| 人数 | 74人 | 74人 | 37人 | |

平成27年3月31日現在

問 在宅高齢者介護用具等給付事業の対象者数は。
答 健康福祉課長 要介護4・5の自宅で介護されている方に対して紙おむつなどを給付するもので、51名の方が対象となっている。

その他特別会計

後期高齢者医療特別会計および岩地・石部・雲見集落排水事業特別会計の決算は、いずれも全員賛成で認定された。

一般会計
補正予算

歳入歳出それぞれに2698万円を増額し、補正後の額を37億3952万7千円とした。

問 介護保険特別会計へ繰り出している低所得者保険料軽減繰出金の対象者は何人分か。

答 健康福祉課長 介護保険料の第1段階にあたる低所得者分の保険料について負担軽減を強化するもので、その強化分を一般会計から繰り出す増額補正である。対象者は517人分を見込んでいる。

問 牛原山町民の森整備計画策定業務委託とあるが、整備はいつ頃を予定しているのか。

答 企画観光課長 整備計画の策定にあたっては、町民の皆さまに関わってもらい、整備が終わってからもまちづくりに参加

していただくことを考えている。町民とのワークショップやフォーラムの開催を考えており、計画は平成28年度に策定し、それ以降にハード面などの整備を行いたい。



牛原山町民の森

問 下田地区消防組合負担金返還金540万1千円の内容は。

答 総務課長 下田地区消防組合は、河津町・下田市・南伊豆町・西伊豆町・松崎町でそれぞれ負担金を拠出して運営している。前年度において、事業実施をした結果、運営費が余ったので、その

分を各市町に返還するもの。当町の負担率14・56%に基づいて負担金が返還される。

問 光ファイバ網整備の関係で、テレビへ情報が流れてくるための器具を約8千円で町が出してくれるという話を業者から聞いたがどうか。

答 企画観光課長 今後、町ではICT（情報通信技術）の活用ということで、情報をテレビの中で見られるような形にしたいと考えている。しかし、そのためには光ボックスという器具が必要で、それがないとテレビで情報を見ることができない。

町では、業者に対して光ボックスを差し上げるとかの話はしていない。

国民健康保険特別会計
補正予算

補正予算（第1号）は、歳入歳出それぞれに2279万3千円を増額し、

補正後の額を13億3579万3千円とした。

後期高齢者医療特別会計
補正予算

補正予算（第1号）は、歳入歳出それぞれに64万4千円を増額し、補正後の額を1億489万2千円とした。

介護保険特別会計
補正予算

補正予算（第1号）は、歳入歳出それぞれに2077万1千円を増額し、補正後の額を8億6132万8千円とした。

水道事業会計
補正予算

収益的支出は、水質検査業務委託の減額などにより、税抜きで当年度純利益を370万円増とすると、965万7千円とした。また、資本的支出は、

県道南伊豆松崎線拡幅工事に伴う水道本管布設替工事や峰配水池改良整備工事に伴い、建設改良費を240万円増額した。

問 水質検査委託料が400万円程減額となっているが理由は何か。

答 生活環境課長 今回、業務を3力年分とし、入札参加業者を増やして入札を実施したところ、大幅な減額を行うことができた。

問 八木山水道本管布設替工事について、八木山で行っている県道拡幅改良工事の補償工事に充てられないのか。

答 生活環境課長 水道本管は県道に布設されているため、町は県からの占用許可を受けている。この許可条件の中に占用物件を移動する場合、補償工事の対象とならないと明記されているため、今回、町単独による工事を行うもの。

条例・規則

◎松崎町個人情報保護条例の一部を改正する条例

番号法（行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律）により、本年10月から国民一人ひとりに「個人番号」が付番され、平成28年1月から利用が開始される。

番号法では、地方公共団体に対して必要な措置を講ずるよう定めていることから、町の条例との整合性を図るため、必要な改正を行った。

問 電算業務を委託している民間事業者への情報流出や、外部からインターネットを使ってサイバー攻撃を受けた場合、個人情報情報の漏えいは大丈夫か。

答 総務課長 町の電算システムは、インターネットに接続する情報系と、役場内部の業務を管理す

る基幹系と2本立てとなっている。原則、基幹系の業務は情報系に接続しない形になっており、基幹系から情報が外部へと漏れることは通常ありえない。サイバー攻撃に関しても、常に新しいセキュリティ対策を更新している。また、業務を扱う職員に対しても管理意識の向上と研修を行っていく。

問 個人情報情報が漏えいされた場合、この条例の中で罰則規定を明確にする必要があるのではないか。

答 総務課長 今回の改正は、国の指示によるもので、個人情報に対する定義や情報提供等記録に係る特定個人情報、情報端末にあるデータ部分の改正となっている。罰則については、番号法の中で規定されているので、今回の条例改正には明記されていない。

◎松崎町手数料徴収条例の一部を改正する条例

番号法の施行に伴い、個人番号の指定と通知カードによる通知、個人番号カードの交付（無料）が始まる。

紛失などによる再交付の場合、通知カード500円、個人番号カード800円と定め、その他土地図面などの複写手数料についてA3版を超えるものは200円と定めた。

◎松崎町議会会議規則の一部を改正する規則

議会における議員の欠席届出の取り扱いに関して、社会情勢を勘案し、出席の場合の欠席届出の規定を新たに追加したもので、全会一致で可決された。

意見書

◎安全保障関連法案に対する十分な審議を求めめる意見書

去る5月15日、内閣から集団的自衛権の行使を限定的に容認する内容を含んだ安全保障関連法案が国会に提出された。その取り扱いにあたり、国民の将来にとって最善の選択が導かれるよう、国会において丁寧かつ十分な審議を尽くすことを、国会に対して求める内容。全会一致で可決された。

調停などを審議

平成27年第4回臨時議会
(7月16日)

◎調停

町道星山線復旧工事に對する受益者負担等調停事件について、受益者の負担金を150万円とする内容などの調停を申し立てるもの。

移設など事業量の減により、請負契約額を253万1千円減額して、1億5871万6千円とするもの。

工事請負契約を審議

平成27年第5回臨時議会
(8月11日)

◎平成27年度（平成26年度繰越）西区津波避難タワー整備工事請負契約

【高さ】

12m（海拔15・4m）

【収容人員】

約200人（2人/m²）

【請負契約額】

7203万6千円

【請負業者】

西伊豆貨物自動車株

【工期】

平成28年3月10日まで



西区津波避難タワー建設予定地

第 4、5 回臨時会・第 3 回定例会賛否状況一覧

| 件 名 | | 議 員 | | | | | |
|------------------------------------|--|-------------|------------------|------------------|-------------|-----------------------|------------------|
| | | 伴 高 志 | 渡 辺 文 彦 | 長 嶋 精 一 | 藤 井 要 | 福 本 栄 一 郎 | 佐 藤 作 行 |
| 第 4 回 臨時会 | 調停について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度漁港施設災害復旧事業 平成26年災 査定第1号 雲見漁港沖防波堤災害復旧工事請負契約の変更について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第 5 回 臨時会 | 平成27年度（平成26年度繰越） 西区津波避難タワー整備工事請負契約について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 第 3 回 定 例 会 | 松崎町個人情報保護条例の一部を改正する条例について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 松崎町手数料徴収条例の一部を改正する条例について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町一般会計補正予算（第2号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第1号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町水道事業会計補正予算（第1号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成27年度松崎町温泉事業会計補正予算（第1号）について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定について | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町岩地集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 平成26年度松崎町石部集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 平成26年度松崎町雲見集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 町道星山線復旧事業の分担金の額を定めることについて | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

○：賛成 ×：反対

町政を問う

問

牛原山整備計画の理念は

答

町民と行政の連携で



藤井 要 議員

問 町では、どのような計画理念のもとに牛原山整備計画策定業務を委託したのか。

答 (町長)

牛原山町民の森については、整備後30年が経過し、公園に対するニーズの変化により、利用者の減少が見られることから再整備が課題となっていました。このため、他町でも実績のある業者に整備計画策定業務を委託した。この中には、町民と行政

画は連動しているのか。
答 (町長)
牛原山は考えながら町づくりを進めていくが、鮎川についての話は進んでいない。鮎川の計画は5年後、10年後を考えた松崎町の本当の基礎になるものと思っている。

問

ときわ・浜丁橋の修繕は

答

今年度に修繕を実施

が連携して進めていくための職員のヒアリング技術研修なども予定している。策定にあたっては、町民の参画や再整備後の町民活動を視野に入れた計画、外部からの視点を取り入れた計画であることをポイントとして進めている。

問

6月議会で、町長は

鮎川について壮大な計画があるとされた。牛原山整備計画と鮎川開発計

本で最も美しい村」連合の皆さまを迎えるべく、対応していきたい。

問

捕獲に向けた取り組みは

答

県と共同で対策を

問 有害鳥獣被害により、観光業の中心に農林業を据えた取り組みが崩れ去る危機にあり、それらの捕獲に向けた壮大な取り組みが必要と考える。5月に夜間捕獲や麻酔銃の関係などの法改正があつ

たが、内容的に取り入れられるようなものがあるのではないか。

答 (産業建設課長)

夜間捕獲などさまざまな法改正があるが、それについて内容を確認した上で、町としてできるものについては対応していきたい。いずれにしても、有害鳥獣については適正な数に管理しなければと考えているため、県と共同で対策を講じていかなければならない課題だと思っている。



修繕が実施されるときわ大橋

問 単独で行く理由を問う

答 自立した町政の推進



長嶋 精一 議員

問 町長は6月定例会で当町は厳しい状況下でも単独で行くと述べたが、その理由を問う。私案だが、1市4町（下田・松崎・河津・西伊豆・南伊豆）が合併した場合、袋井市の人口・職員人件費の割合を適正水準とする、合併後の職員人件費は年間15億円削減可能と試算される。人口減少時代はお金が不足する時代であるが、生きていくためには「ロマン」も「オ

カネ」も必要なのである。削減した15億円を農林水産観光対策、災害対策、医療福祉対策に充てること、住民にとって有益と考える。また、①単独②1市4町合併③西伊豆・松崎合併、何れを選択したとしても、これからの「縮小社会」を生き抜くためには、古い成長モデルのままの役場組織を徹底的にスリム化する必要があると考える。

答（町長）

合併した市町の評価はさまざまであるが、住民サービスが低下したという声も聞く。厳しさが増してきているが、近隣市町との連携をより強化し、小さくとも自立した町となるよう町政を進めて行く。

問 まつざき荘善後策

答 早期黒字化を図る

問 まつざき荘は6年連続赤字状態。町長は運営委託している振興公社の理事長も兼ねており、責任は重い。毎日一輪挿しの花を持参してくれる従業員、真夏の炎天下草刈りをしている従業員がいた。真面目にやっている従業員ほど赤字はつらいと想像する。連続赤字は従業員の責任ではない。「過大投資・借入過多・根拠なき楽観的予測」をしたトップ層の責任である。今後どう対処していくのか。

答（町長）

まつざき荘は町営施設として、地元雇用の拡大・地元仕入れなど観光の尖兵として大きく貢献してきた。今年7月末宿泊客数は前年比大幅増加し、好転の兆しがある。今後は町と振興公社が協力にタッグを組み、コスト削減、営業力強化に努め、早期黒字化を目指す。

問 今後の運営策について

私案を作成してあるので町長などと議論する機会を設けてほしい。

答（町長）

望むところ。極力早くやりたい。

問 バス運行について

答 関係機関と調整中

問 沼津方面の病院に通う人のために、松崎始発に間に合うよう各地区にて小型バスなどの運行はできないか。また、土屋副知事は、伊豆市町の連携を強く進める方針だが

そこで、伊豆の国市方面へ運行する東伊豆方面からのバスと西伊豆方面からのバスが費用分担しつつ運行するシステムがでないか。

答（町長）

今の時点は始発前のバス運行は考えていない。しかし、地元や近接市町の病院では対応できない疾患のある方で沼津方面に通院している方は概ね280人以上いると把握している。その方々が沼津方面に通う所要時間、乗り換えの不便さを考慮し、南伊豆発車河津経由の伊豆の国市総合病院直通バスに、松崎西伊豆町民が出口停留所で合流し、乗れるよう関係機関と調整中。



早期黒字化を図る
伊豆まつざき荘

問 総合戦略のビジョンを問う

答 国・県の方針に沿って策定



渡辺 文彦 議員

てのご意見を伺った。

問 総合戦略策定の委託業者と、選定の経緯は。

答 (町長)

7月に、人口ビジョン

および総合戦略策定支援業務委託をプロポーザル方式(企画提案方式)で入札を実施し、審査委員会の審査を経て4社の中から提案内容の優れていた「株ぎようせい」と契約をさせていただいた。

今後、広く町民や関係者の意見を伺いながら会議を重ねて策定していく。

施設を造る必要はないと考えている。

問 町では、富士ゼロックス(株)と連携しているが、これからの取り組みは。

また、この取り組みがうまくいけば、現在、国が検討している企業版ふるさと納税の獲得にもつながるのではないか。

答 (町長)

富士ゼロックス(株)とは、空き家を活用したシェアオフィスのひとつの住居を複数人で共有すること(事業を進めている。これは町内の空き家を借り上げ、田舎で仕事をしたい

IT企業などがシェアオフィスとしての利用の可能性を探るもので、フィールドワークや実証事業で検討を重ねていく。

答 (副町長)

現在、国で検討されている企業版ふるさと納税の趣旨は、今回の富士ゼロックス(株)と連携して取り組むことと合致している。今後、制度の動向を

見ながら、それを上手に活用できるよう、町としても体制を整えていきたい。



富士ゼロックスと町民による対話会

問 一部の町民の方が、シェアハウスのことで体験農業、体験住まいみたいなおことで取り組まれているが、町は、それに対して積極的に支援すべきではないか。

答 (町長)

町にとって、これが絶対に必要なだと本気でやっているところに対しては、それなりの支援をしていく。

問 総合戦略のビジョンについて、町はどういう戦略をもって取り組もうとしているのか。

答 (町長)

町の総合戦略は、国が掲げる4つの基本目標に加えて、県の総合戦略『「命」を守り、日本一「安心・安全」な県土を築く』を勘案して、戦略を策定することになっている。

問 創生会議のメンバー構成は。

答 (町長)

戦略策定後も事業の検証に関わっていた美しいことから、日本で最も美しい村推進委員会を活用していく。メンバーは商工会を始め、観光協会や農業委員会、議会議員など33名の方で構成し、9月の第1回目の会議では、総合戦略策定につい

問 南伊豆町は杉並区と共同で介護施設を造り、雇用の場と地域経済の活性化を考えている。当町においても、そのような事を考えても良いのでは。

答 (健康福祉課長)

新しく介護施設を造ることについては、人口の状況などを見ながら判断する。今後、要介護者数は減っていくという見込みがあるため、今、介護



電柵緊急点検の結果は（電柵の一斉点検）



佐藤 作行 議員

問 電柵緊急点検の結果は

答 事業法違反はない

問 昨年以上に、農産物に多大な被害を出しているイノシシ、シカの平成26年度の駆除実績は。

答（町長）

平成26年度は、イノシシが92頭、シカが298頭の合計390頭だった。また、平成27年度7月までの実績は、イノシシが60頭、シカが52頭の合計112頭である。

問 西伊豆町で起こった不幸な事故をきっかけに、電柵の緊急点検が実施されたが、調査結果と防止対策は。

答（町長）

隣の西伊豆町で起きた事故で、全国的に電気柵の緊急点検が行われ、松崎町でもこれを実施した。点検総数は74件で、うち7件に電気柵設置危険表示の不備が見つかり、設置者に対して適切に表示するよう指導を行った。なお、西伊豆町の事故案件のような電気事業法に違反した設置方法の電気

柵はなかったが、このような事故が二度と起こらないよう、電気柵設置費用助成申請者に対し、JAや販売業者、農林事務所と共同で、法令を順守した安全、かつ適切な電気柵設置を指導している。

問 来年秋の総会は

答 開催は大変光栄

問 日本で最も美しい村について、来年秋に当町において総会が開催されることになったが、来客数、予算などの見込みは。

答（町長）

連合に加盟し、2年余りでフェスティバルが開催できることは、大変光栄であり、身が引き締まる思いである。来客数は、300〜400人の参加が見込まれる。開催費用は、参加費と町一般会計からの支出となり、今秋開催の長野県木曾町では、一般会計に400万円の予算措置がされている。

問 フードバンクへの対応は

答 制度充実に協力

問 「フードバンクふじのくに」が発足し、当町社会福祉協議会も6月から利用を始めているが、これからの方向と予算措置などの考えは。

答（町長）

皆さまの尽力により開始され、6月から現在まで4回の利用があり、困窮した状況を乗り越えることができた。今後利用者が増加し、配布に要する費用などを求められた場合は予算措置を行うなど、この制度がより充実するよう協力したい。

フードバンクとは

十分に安全に食べられるのに、箱が壊れたり、印字が薄くなったりして、販売できない食品を企業から寄贈してもらい、生活困窮者などに配給する活動およびその活動を行う団体のこと。

問 町の温泉利用は

答 日帰り温泉検討中



伴 高志 議員

問 大沢にある個人温泉の権利を無償で譲っても良いと関係者が話しているが、その話を町は確認したのか。

答 (町長) 2年くらい前に大沢の方から、自分の持つている温泉を町で使ってもらえたらという話があったが、当時権利の問題や掘削工事の必要があったため町として対応ができないと判断させてもらった。

問 町内を回る温泉は温度も高く余剰分もある。これを利用して日帰り入浴施設を造る計画はあるのか。

答 (町長) 町営温泉事業は現在300口が利用可能となっている。本年4月から「10年間期間限定加入」の新設などにより、利用口数増を図っている。日帰り温泉については、地元住民も多く利用できるような施設造りを考えてみたい。

問 川のりの対策は
答 保全に努力する

問 那賀川、岩科川の護岸工事の入札条件に川のり保全の施策を取り入れることはできないか。

答 (町長)

川のりの昨年度の不漁については河川工事による濁水の影響が議論された。その後採取者による川のり会もでき、会の働きかけにより下田土木事務所や賀茂農林事務所が川のりに影響の少ない工

法を検討している。町の貴重な特産品であり、保全に努力していきたい。

問 空き家バンクは

答 今後も働きかける

問 空き家バンク登録に向けた調査の現状は。

答 (町長)

地域おこし協力隊が空き家台帳をもとに各地区を調査している。現在9地区を回り139軒の空き家が確認されたが、登録に至る物件はない状況である。



再開したかじかの湯

問 かじかの湯の経営の状況を説明していただきたい。また源泉のメンテナンスで3カ月休業していたが、なぜ3カ月もかかったのか。

答 (町長)

平成26年度の利用者は3万330人で、収入は935万5千円となっている。花の三聖苑は松崎町振興公社に管理運営を委託しており全体の委託料として支出しているため、かじかの湯だけの正

確な支出は出せないが、関係する経費を計算すると1052万円ほどになり、収支はマイナス117万円が想定される。

答 (企画観光課長) 休館ということで、大変ご迷惑をおかけした。スケジュールが溜まるため6〜7年に1回掘削工事が必要になり、見積もりを取ったり工事関係の精査をしていたことにより遅くなり、6月の補正予算での対応となった。

これからの日本経済の方向性を学ぶ

静岡県市町議員研修会

8月17日、グランシップ（静岡市）において、県内35市町の議会議員が集まって議員研修会が開催され、当町からも議員8人が参加した。本年度の研修会では、経済学者である慶応義塾大学経済学部教授の金子勝氏を講師に迎え、「地域発！どうする日本」と題して、講演が行われた。



講演する金子氏

金子氏は、東京大学大学院経済学研究科博士課程を修了後、同大学社会科学研究所助手となり、その後は茨城大学人文学部講師や法政大学経済学部教授を経て、現在に至っている。またTBS「サンデーモーニング」やNHKラジオの「ビジネス展望」などメディアに出演する一方で、新聞記事や雑誌、単著本など執筆活動も盛んに行っている。講演では、現在の経済政策の実態や課題、金融資本主義が引き起こしている産業構造や雇用の問題などをデータに基づいて解説しながら、なぜ地域の経済がまわっていかないのか、そのためにはどうしたら良いのか、独自の視点でわかりやすく説明してくれた。

金子氏によると、現在の金融緩和による経済政策では目先の利害にだけ目が行って社会経済の大きな流れを見失っており、地方はますます疲弊していくとのこと。今は歴史的な産業構造の転換期にあり、大型スーパードライの大量生産・大量販売・大量消費することでコスト削減する20世紀型の「集中メインフレーム型」から、インターネットで繋がった社会をネットワークで情報制御する「地域分散ネットワーク型」の経済へ大きく産業構造が転換する途上にあり、まずは地域で先行しているエネルギー政策を進めていく必要があるとのことだった。

これは、ICT（情報通信技術）を使い、再生可能エネルギーという分散型エネルギーへの転換のための電力システムの改革や、直売所のPOSシステム（店舗で商品を販売することに商品の販売情報を記録し、集計結果を在庫管理やマーケティング材料として用いるシステム）における全国ネットワークの形成、地域医療・介護関係機関のネットワーク化によるシステム構築での効率的なサービスなど、地域に根づいた産業を創出して経済成長を促そうとするもの。そのためには地域の資源にしたがって、地域でどういうエネルギー政策や産業政策を決定するかが重要であるとのことだった。



講師の三宅氏

今回の研修会では、日本経済の現状と課題についてテレビなどでは聞けない貴重な話を聞くことができ、また地域に産業と雇用を創り出す産業戦略の重要性を改めて認識する機会となった。

（副議長）

7月21日、西伊豆町保健センターにおいて、西豆地区町議会議員研修会が開催された。

これは議員の資質向上と、西伊豆町議会議員との交流を目的に合同研修会を開催したもの。

今回は、全国町村議会議長会議調査部長の三宅達也氏を招いて、「議会制度の概要と町村議会の現状」についてお話をいただいた。研修では、議会制度の解説や議会活動をとり巻く現状、課題を知ることができ、有意義な研修会となった。

西豆地区町議会 議員研修会

次の定例会は、
12月8日(火)からの予定です。

議会のうごき

7月

- 1日 賀茂郡町議会議長会議
- 2日 広報編集委員会
- 9日 広報編集委員会・議会全員協議会
- 16日 議会だより108号発行
第4回臨時会
- 21日 西豆地区町議会議員研修会（西伊豆町）
- 27日 伊豆縦貫自動車道建設促進期成同盟会合同
促進大会（東京都）
- 29日 下田地区消防組合臨時会

8月

- 4日 議会全員協議会
- 11日 第5回臨時会
- 17日 静岡県市町議会議員研修会（静岡市）
- 25日 下田メディカルセンター組合議会全員協議会
下田メディカルセンター組合議会定例会
下田地区消防組合議会定例会

9月

- 2日 議会運営委員会・広報編集委員会
- 4日 議員会勉強会
- 8・9・11日 第3回定例会
- 10日 静岡県町村議会議長会総会（静岡市）

伴 高志 渡辺 文彦
長嶋 精一 藤井 要
福本 栄一郎 佐藤 作行

編集委員

土屋 清武

編集委員長

議長 稲葉 昭宏

発行責任者



この人に
聞きました⑦
太鼓フェスティバル
実行委員
藤井 初さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、太鼓フェスティバル実行委員会会長代行の藤井さんにお話を伺いました。

実行委員会に参加したきっかけは。

最初はあまり興味を持っていなかったけど、手伝いを頼まれて参加した。今年で太鼓フェスティバルは16回目になるけど、5回目から参加している。

活動の中で感じることは。

最初から参加していた人は、ほとんど抜けてしまつて新しく入ってくる人がいない。太鼓やイベントの裏方作業に興味があつたり、海岸清掃で協力してくれる人が出て来てくれたらと思う。

町の課題は何だと思いますか。

少子高齢化が進んで、空き家がどんどん増えてくる。人口減少の問題も、

役場だけで対策を考えてもどうしようもない。本当に一人ひとりが考えていかなければならないと思う。

町や議会への要望は。

記憶に残る、来年も楽しみにしてもらえる演奏会にしたいと思つているので、今までどおり当日の職員のボランティアなどでバックアップしてもらえたらと思う。

（聞き手 編集委員長）

海鳴り

今定例議会は一般会計の決算認定であるが、他に重要な議案審議があつた。岩地町道下の法面崩落事故についての補償問題である。平成24年5月14日の被害報告から3年半という長い時間を経ての決着である。この間議会は何回となく議論を重ね、当局の定まらぬ対応には翻弄された。結果的には分担金条例に基づき150万円としたものである。この件について振り返れば、当局も議会も多くの反省点を残したと思う。これだけ混乱したのは、当局の軽率な初期対応が原因と思われる。これからも同様な災害が起きる可能性は十分考えられる。物言わぬ寛容な町民の声をいいことに、原資は血税であるのに「自分のお金でないから」と楽で簡単な手法は議会としてしっかり監視し、そして（これで良かったのか）と自問自答を忘れてはならない。

（議長）